

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000146		
法人名	社会福祉法人 大和福寿会		
事業所名	グループホーム オアシスキズリ (ひまわり)		
所在地	大阪府東大阪市衣摺2丁目9番13号		
自己評価作成日	平成25年5月1日	評価結果市町村受理日	平成25年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年6月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・安心健康を提供しますを理念とし、職員一同実現に向けて取り組んでいます。 ・家庭的で温かい雰囲気の中、入居者中心のケアを心がけ自己決定ができるよう支援しています。 ・食材の買い出しから調理に至るまで、入居者と職員と共同で行い楽しんで頂いております。 ・主治医との連携を密にとり健康管理を充実させています。急変時にも対応できる体制が整っています。又ご本人、ご家族の希望により看取りケアを実施しています。 ・地域運営推進会議においてグループホームの情報を幅広く発信し理解して頂く事により、防災避難訓練に地域消防団や近隣にある学生寮の学生に参加して頂き、災害時においての力強い協力関係ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成元年に医療法人「隆星会」を設立し、平成8年に介護老人保健施設オアシスを開設して高齢者介護に携わった。平成17年JR長瀬駅から徒歩約10分の閑静な住宅街の一角にグループホーム「オアシスキズリ」を開設し、平成21年10月に社会福祉法人「大和福寿会」を設立して事業移管した。日常運営面で管理者を中心に各種委員会を設置しており、食事委員会では献立に工夫を加えており、週2回は入所者と職員が食材の買い物にも行っている。食後は職員の声掛けで利用者とおしゃべり会も設けられている。地域との交流も盛んで、近くの大学寮の学生と災害時の協力体制を確立している。看取りに関しては「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」を文書化しており、協力医療機関の医師とは24時間連携体制を組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心・健康を提供します を理念に掲げ、毎朝朝礼時に唱和し、入居者の援助に取り組んでいます。	職員は入職時に、オアシススタンダードカード(法人理念や行動指針)を受けて携帯し、朝礼で確認して実践に活かしているが、事業所独自の理念はない。	地域密着型サービスの意義と役割を考へて、事業所と地域との関係を重視した事業所独自の理念をつくること望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の地車や文化祭、育成会主催の盆踊りや餅つき大会に積極的に参加している。又 施設の行事に招待する等、常に交流の場を設ける努力を行っている。	自治会に加入し、地域交流を積極的に図っている。町会の掲示板に事業所行事案内(納涼祭、餅つき大会)を掲示している。地域の行事(盆踊り、布団太鼓)に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回地域包括支援センター主催の地域住民を対象とした、介護予防講座を開催したり、運営推進会議において、介護の相談をうけたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会役員、地域包括支援センター職員、入居者、家族代表、事業所代表を委員とする運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、入居者の状況、職員の紹介、活動報告等を行い、意見を求めサービスの向上に努めている。	年6回、奇数月の金曜日開催。利用者、家族、自治会各役員、地域包括支援センターが出席し、事業所の報告や自治会からの情報で活発な意見交換をして、議事録を作成してファイルを公開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との関係づくりが大切であると認識し、必要に応じ担当者に質問や相談を行い、協力関係を築くよう努力している。	年2回、市の総合庁舎で開催される地域密着型事業者連絡会に参加している。業務に関する報告や相談をし、情報を得て良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族に心理的圧迫感を与えない配慮や、身体拘束について職員が理解し、拘束しないケアを行うよう努めている。	身体拘束をしない方針を定め日常のケアに取り組んでいる。1階玄関、2・3階ユニット入口は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場環境を整え、職員がストレスをためない様に配慮している。又、普段の業務において虐待を見過ごす事無く意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	予防講座等で学ぶ機会を作り学んでいるが、研修の参加や勉強会が出来ておらず、職員全員が学べていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書を詳しく読み上げ質問等には説明を行い理解、納得をして頂いている。解約、改定時は十分な説明を行い理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置。入居者は毎日の生活の中で聞き、ご家族は面会時や家族会などの機会に聞き運営に反映できるように、努力している。	毎月「オアシスキズリ新聞」を作成して利用者別にコメント欄に一言記入して送り、家族の来訪時には声掛けをして意見を聞いている。来訪記録は、日付、家族名のみで話の内容の記録がない。	職員会議で検討出来るように、家族に対する利用者の状況報告と、家族の希望や意見などを記録して残すことが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議を行い、改善すべき点を提案し、意見を取り入れている。必要に応じその都度意見を聞き、職員全員で検討し改善反映に取り組んでいる。	法人全体の委員会会議（職員全員が各委員会に所属）、責任者会議、グループホーム職員会議など、何れも月1回開催され、意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者の担当、その日のリーダーを設け、仕事の内容を明確にしている。職員それぞれが、自己実現できる職場環境であるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で、職員がレベルアップできるように指導を行っている。外部研修、法人内研修、勉強会、委員会の参加は不十分であり、体制づくりが必要と思われる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連携が取れておらず、相互研修を行う努力をし、質の向上を図る必要があると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始に至るまで、本人や家族の思いを傾聴し、不安なく入居できるようにしている。職員は事前にミーティングを行い、本人や家族の思いを理解し不安なくスムーズにサービスが開始できよう努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人や家族が求めている事を理解し、要望が実現するよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや状況等を確認したうえで、必要とされるサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者を高齢者として尊重し、笑顔を絶やさず入居者の立場場に立ち、喜びや、楽しみが共感できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	きずり新聞を毎月発行し、日々のご様子をお知らせしています。家族会ではご家族を交え交流が図れるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、施設の行事にに参加を呼びかけ実行している。入居者の希望で、馴染み散髪屋を利用したり、宗教活動の参加も支援している。	利用者の人間関係や生活習慣を把握して、もう一つの家庭の家族としての感覚で、以前出かけていた散髪屋や協会へ行けるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の助け合いの場面が多く見られるがトラブルが起こる事もあり、席を替えたり職員の支援により、ふれあいができるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や死亡による退去が殆んどで、退去後家族の相談や、支援を行うまでに至っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃、一人ひとりに関わる時間を持ち、その人それぞれお思いを理解し、安心した生活ができるように努めている。困難な事があればその人本位に職員、家族と話し合い解決するよう努めている。	アセスメントシートや介護記録、家族からの情報を共有し、普段の会話や仕草から希望や意向を把握するように務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント、家族会や面会時、又ご本人との会話の中で趣味、嗜好や生活歴を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録を毎日記載している。一人ひとりの心身の状況を毎朝朝礼時、終礼時に申し送りを行うことにより職員全員が現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の要望を傾聴し、その情報をカンファレンスや介護を通じ、スタッフ全員で検討し、介護計画を作成し、実践するように努めている。	毎月モニタリングを行ない、6ヶ月に1回見直している。利用者の状態に変化がある場合は、サービス担当者会議を開いて見直して、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や連絡帳を活用し、気づいた点や問題点を記録している。ケア内容の変更が必要な場合は、連絡帳にて職員に周知徹底できるように心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の希望や状況により、福祉用具を活用したり、通院の地の送迎の援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域自治会の方に運営推進会議に参加して頂き、地域ニーズを把握するように努めている。地域の行事は積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の希望を聞き取り従うようにしている。常日頃より主治医との連携を密にとり、緊急時に関連医療機関と連携がスムーズにとれるように努めている。	利用者・家族の同意を得て契約医療機関をかかりつけ医として、月4回の往診があり、うち2回は居宅療養管理指導を受けている。眼科、歯科は家族が同行して継続受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェック等を行い、特変があればその都度看護師に報告をし、速やかな対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを用い、施設での状態を報告している。病院の相談員や看護師と連携を取り情報交換を行い、良好な関係が保てるように努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、主治医と話し合いを行い、ご家族の希望に沿うよう方向性を決めている。職員に対しては、会議等を用いて十分に説明しながら、情報を共有し、支援に取り組んでいる。	入居時に「重度化した場合における対応に関する指針」を作成し同意書を得ている。状況の変化に応じて家族の意向に沿い、医師の助言を得ながら十分に話し合い方針を共有している。3名の看取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医より指導を受け事故発生時や緊急時に対応している。夜間の事故や急変時には管理者に指示が受けられるよう体制が出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民、近隣の大学生寮の学生、地域消防団に参加して頂き、防災避難訓練を行っており、地域との協力体制を図っている。	消防署の協力を得て年2回、地域消防団、近畿大阪学生寮生徒が参加して消防避難訓練を実施し、年2回自衛避難訓練をしている。非常食・備品は準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格やプライバシーを尊重し、その人らしく生活が送れるように心がけている。	利用者一人ひとりの人格や誇りを大切にしたケアを徹底して、接遇研修を実施している。個人情報スタッフルームで厳重に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、本人の思いや希望を傾聴し自己決定ができるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく生活をおくって頂く為に、一人ひとりの生活ペースを大事に考え希望に沿った援助ができるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問理美容により希望のヘアスタイルにしている。衣類等はご本人に選んで頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しから、下準備、調理に至るまで入居者と共に行っている。希望食を取り入れるなど食事が楽しみになるように心がけている。	利用者の希望を聞きながら、担当者が献立を作成して業者に注文し買い物に行くなど、各ユニットで調理している。行事食や月1回外食の日もある。調理中の匂いが漂い食事が楽しみになる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月職員が献立を作成し、栄養バランスが保たれるように努力している。栄養については主治医に確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを全員に行っている。関連医療機関である、歯科医との連携を取りながら治療管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットに頼ること無く、その人それぞれの排泄サイクルに合わせてトイレで排泄ができるように援助している。失禁のある人にはその状態に応じトイレ誘導を行っている。	身体チェック表で全員の排泄状態を把握し、トイレで排泄できるように、事前にさりげなく声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量に気を付け、ヨーグルトを食べて頂くなど個別に取り組んでいる。又自然排便のない方には、主治医の指導により服薬にてコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴して頂いている。必要があればこれにこだわらず随時と考えています。拒否のある人には、無理強いをせず気分が良い時に入浴して頂くように心がけている。	週2回、午前中3人位が入浴している。入浴剤を入れてゆっくりと入浴を楽しめるように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人それぞれの気持ちを理解し安心して就寝して頂くよう心がけている。法室により不眠の方がいる時は好みの飲み物を提供したり、側に付き添い話をしたり眠れるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については理解に努めているが副作用については理解するまでには至っていない。病状管理の必要な人については、職員が共有、確認ができる体制を作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれにあった活動を支援し他者との関係を深めたり、楽しめたりする工夫を取り入れながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園やスーパー等に外出している。又地域の行事やお花見、外食会等もしている。個別支援も本人の希望を把握し支援している。	きずり公園へ散歩、コンビニにおやつを買いに行き、万代百貨店への食材の買い物など、希望に沿って外出している。お花見には弁当を持って金岡公園へ出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望される物に関しては、家族と相談し満足して頂けるよう支援している。金銭は立替とし、お金を所持したりする事はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連携を図りながら、本人の希望するところに電話ができるよう支援している。又職員が付き添い手紙や、はがきのやり取りができるようしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには四季を取り入れた飾りがあり、家庭的で温かい雰囲気が出せるように心がけている。	ゆったりしたリビングは明るく、食後の和やかな団欒がある。壁には四季に応じた飾り付けや生け花がある。浴室入口には暖簾をさげ、トイレのドアに表示があり、見当識を補助する配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの食事の席は決まっているが、その他ソファ等は自由に誰でも座り、入居者同士の会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた馴染みの家具や、好みの物を持ち込み、それぞれに居心地良く過ごして頂いている。	居室は住居表示をした名札をつけ、洗面台、洋服筆筒が設置されている。ソファ、仏壇、写真、絵画など使い慣れたものを置き我が家としたゆっくりした暮らしがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの役割が達成できるよう支援したり、場所が分かるように工夫している。		